

2022 年度 マリンバイオテクノロジー学会 「若手の会 秋のシンポジウム」報告

2022 年 11 月 29 日（火）16:20～18:10、マリンバイオテクノロジー学会若手の会主催の秋のシンポジウムを開催しました。日本大学生物資源科学部の講義室を会場とし、Zoom webinar を利用して配信するハイブリッドでの実施を試みました。当日会場には吉崎悟朗会長をはじめ、岡田茂副会長、若手の会の委員数名が参集しました。対面とオンラインをあわせて 100 名を超える方々にご参加いただき盛況のうちに終えることができました。

今回は、北里大学海洋生命科学部講師の上岡麗子先生に「海洋細菌のゲノム情報を活用した新規天然化合物の探索」、日本大学生物資源科学部教授の森 司先生に「捕食者—被捕食者相互作用により被捕食者の身体で何が起きるのか？」との 2 演題でご講演いただきました。上岡先生のご講演では、ゲノムマイニングという最新の手法を駆使することで、新たな機能を持った化合物を発見した経緯や今後の展望について、最新の知見とともにお話しいただきました。森先生には、オタマジャクシが、捕食者であるサンショウウオなどに対して、被食を避けるための適応について、これまで明らかになった事実をもとに、詳細にご講演いただきました。各講演の終了後、オンラインおよび会場で活発な質疑応答がありました。両先生のご講演内容は、いずれもマリンバイオテクノロジー学会会員にとっては、研究への新たな取り組み方の参考になるもので、これから研究者を目指そうと考えている若い人たちにとっても刺激になるものであったと思います。

コロナ禍に見舞われて以降、初めて対面を含めた形でのシンポジウム開催を試みました。第 8 波の入り口か、とも言われていた時期でもあったため、企画の段階で大学側より「学外者が多数学内に入るのは望ましくない」との指摘を受けて、対面で実施しつつオンラインを活用するハイブリッド形式としましたが、講演会の終了後も会場では両先生への質問が相次ぎ、対面での講演会実施の利点を再認識させられました。2023 年度の学会大会は、対面での実施予定と聞いております。久しぶりに会員の方々が集まり有意義な意見交換ができること、そして対面での学会参加の経験のない学生さんの貴重な場になることを期待しております。

（企画責任者 日本大学生物資源科学部 糸井史朗・澤山英太郎）